

戦時下の暮らし(その1)

戦争に駆り立てる

「国民精神総動員運動」

昭和一二年(一九三七)七月、盧溝橋事件に端を発し、日本と中国の全面戦争が始まると、国内では経済政策を中心とした戦時体制(国家総動員法等の施行)が強化されると共に国民を戦争に駆り立てる思想を喚起する、「国民精神総動員運動」を政府が中心となり取り組みました。

この運動は、「挙国一致・尽忠報国・堅持持久」をスローガンとし、内務省、文部省の指導で全国市町村会、在郷軍人会など七団体により中央連盟を組織し、道府県知事を委員長とする地方実行委員会を設置しましたが、市町村段階では、独自の組織を持たず、銃後後援会(後に銃後奉公会)が中核となり進められました。この運動の実践事項として次の項目がありました。

*社会風潮の一新として

- ① 不動の精神の鍛錬
- ② 必勝の信念の堅持
- ③ 対敵心の訓練

*困苦欠乏に堪える心身の鍛錬として

- ① 儉約力行
- ② 生活の刷新

*銃後の後援の強化持続として

- ① 派遣軍人家族慰問、家業のほう助
- ② 銃後後援献金献納
- ③ 勤労奉仕
- ④ 共同作業による生産力の維持

*非常時経済の協力として

- ① 国産品の使用
- ② 輸入品使用制限
- *資源の愛護として
- ① 消費の抑制
- ② 代用品の使用
- ③ 廃品の収集提供
- ④ 国防資源の献納

この国民総動員運動は、当初「精神的運動」の性格が強くありましたが、次第に経済的国策への協力が中心となり、貯蓄増強、国債消化の奨励、金属等の回収、労力奉仕などが強力に推し進められました。

端野村では「銃後後援会」が中心になり活動が展開されましたが、この後援会などの事務は端野村役場(社会係)が担当しました。

当時の関係する書類等はなく不明ですが、その中で唯一「昭和一三年度端野村事務報告書」の「時局事務」の中に、一三年度の活動概要が下表のように記されています。

この運動は、抽象的な「徳目」を並べ、物資や労力の面で国民を動員し、日常生活の中で戦争協力思想と体制を築きあげてきました。

国民精神総運動関係

政府ニ於テハ客年一〇月一三日ヨリ第一回国民総動員強調週間ヲ全国的ニ実施シ本年度モ左表ノ如ク逐次実施シ非常時局下ニ於ケル国民ノ決意ヲ固メタリ(以下省略)

ちようこく けんげん 肇国精神ノ顕現	2月下旬ヨリ1週間
健康週間	5月17日ヨリ1週間
貯蓄報国強調週間	8月23日ヨリ1週間
じゆうご 銃後後援強調週間	10月5日ヨリ1週間
国民貯蓄ノ徹底	11月7日ヨリ1週間
非常時生活様式ノ確立	
資源ノ回収	貯蓄額 39,258円
国民貯蓄	
組合数	49組合
加入人員	1,143人

* 廃品回収～資源ノ愛護、資源ノ回収モ亦長期建設ニ対スル重要ナル役割ニシテ本村ニ於テハ小学生、青年学校生、男女青年団及び国防婦人会員ノ強カヲ得実施、其ノ換算価額176円93銭ニ達セリ

銃後後援(奉公)会

国民精神総動員運動の推進は、「銃後後援会」という新しい国民組織によって推進することとなりました。

「銃後」とは、「前線（戦場）」に対する後方を意味し、日露戦争当時から一部の関係者の中で使われていましたが、軍部や政府は「銃後の護り」「銃後の務め」として国民に強要しました。

端野村においても、昭和一二年九月一〇日、「端野村銃後後援会」が発足しました。役員名簿は残されていませんが、会長には村長が、副会長に助役が当たり、幹事には会長が指名した方が就任し、評議員には村内の官公署の長、村会議員、村内各区长（現在の連合自治会長）、各種団体の中から必要に応じ委嘱されましたが、その氏名は定かではありません。

この銃後後援会の事業内容については、実践記録がなく、これを明らかにすることは出来ませんが、「銃後奉公会事業細目」が残されていますので、その概要を記します。

「銃後奉公会事業細目」の概要

- 一、兵役義務心の高揚
隣保相扶
道義心の振作
- 二、兵役義務服行の準備
- 三、軍事援助

- ①精神指導
- ②一般援護

③ 労力奉仕其の他家業援護

④ 弔意

⑤ 慰問慰謝

⑥ 部隊への協力

⑦ 身上及び家族万般の相談

⑧ 軍人援護思想の普及徹底

四、其の他必要な事項

また、「昭和一三年度端野村事務報告書」には、銃後後援会事務について次のように記されており、戦争遂行のため国民の自由と権利、そして思想までを統制し、軍国主義国家の道を突き進んでいきました

* 召集出動将兵ノ数暫次増加セルヲ以テ銃後後援会事務モ次第二複雑多岐ニ亘リ、本年度ニ於テハ予算三一六二円内会費三〇〇〇円ニシテ其ノ具体的事業ヲ示セバ左ノ如シ

- (イ) 労力援助
- (ロ) 遺家族慰問
- (ハ) 在営慰問
- (ニ) 召集兵慰問
- (ホ) 応召軍人主婦ノ会結成

(事業項目のみ記載)

※軍国主義の国の政治、経済、法律、教育などの政策、組織を戦争のために準備し、対外進出で国威を高めようという思想。



戦地將兵への慰問袋づくり

(昭和一七年端野村銃後奉公会)

在郷軍人会館の広間で、端野村銃後奉公会が中心になり好青年団市街分団の応援を得て、戦地の兵士に送る慰問袋を作っている。写真中一列目向かって左から二番目の方は、石川正雄さん（在郷軍人分会長）